

2012年6月28日

岡山県知事

石井 正弘 様

日本共産党岡山県議会議員団

団長 森脇 久紀

## MV 22 オスプレイ配備の中止を求める申し入れ

日米両政府が米軍普天間飛行場に配備しようとしている垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイについて、防衛省は「米軍岩国基地に先行して搬入し、安全確認する方針」で、すでに山口県と岩国市に伝達したと報じられています。

普天間基地へのオスプレイ配備について、沖縄県議会では全会一致で配備に反対する決議を採択し、宜野湾市議会をはじめ市町村議会も、8割を超える議会が反対決議を採択するなど、県民ぐるみの反対が起こっています。また、岩国基地への先行配備の計画が示されたことにより、山口県や広島県など、これまでも米軍機の低空飛行の中止を求めてきた人々を中心に抗議の声が上がっています。

岩国基地への配備について、米軍文書“Environmental Review for MV-22 Basing in Okinawa and Operating in Japan”によると、「1度に付き約42回の運用、年間500回の運用」「訓練のためにより長期の滞在がある」「夜間の運用はMV 22 訓練の重要な部分なので、現在岩国飛行場で実施されているのと同程度の夜間飛行をする」などと記されています。これは、単なる安全確認にとどまらず、夜間も含めた必要な訓練を実施するという、重要な内容を含んでいます。

さらに、飛行訓練ルートについて、米軍文書には中国山地上空のブラウン・ルートが示されていませんが、この地は岩国配備の航空機の訓練空域ですので、オスプレイの訓練も念頭においた対応をすることが必要だと考えられます。環境審査なしに飛行することが生じれば、そのことも大きな問題です。

そもそもオスプレイは、墜落事故を繰り返している危険な航空機です。このたび普天間基地への配備にあたって滑走路両端に「事故可能性ゾーン」（クリアゾーン）が明記されました。米国ではこの圏域での居住や経済活動が禁止されていますが、宜野湾市では18の小学校、保育園、公民館が、800の住宅が存在し、約3600人が居住しており、ひとたび事故が起これば大惨事になります。

よって日本共産党岡山県議団は、MV 22 オスプレイの普天間基地配備に強く反対するとともに、岡山県に対して下記の点を申し入れるものです。

## 記

- 1、すでに防衛省が山口県等に説明している内容を聴取すること
- 2、中国地方への影響を及ぼす岩国基地でのオスプレイ運用・訓練は中止するよう、米国および日本政府に求めること
- 3、普天間基地への配備を中止するよう、米国および日本政府に求めること
- 4、上記 2 および 3 について、中国地方知事会にも共同行動をよびかけること

以上